

沖の潮風をたっぷり吸って 総会ニュース

作業もデタントもわたしたちの糧となるもの、ですよね。とにかく、デタントの時間は作業よりずっと少ないけれど、デタントをしながら、きょうだいとしての関わりをもっとたくさんできるし、作業のためのやる気がまたわいてくるというものです。こんなふうには、では、試してみましょ。



8月17日火曜日、有粧さんとクリスチナの進行で、お楽しみ会がありました。ゲームを準備してくださったステラに遠くからありがとう！！デタントの時はテーブルを囲んでする作業とはまた一味違った和気あいあいとした雰囲気です、みんなで大笑いしました。



土曜日の夜は、また別の催しがありました。それは、イル・ブランシュの前を流れるドウロン川に橋が架かって、それまで分かれていた対岸の二つの村、イル・ブランシュとプレスタンレグレーヴが、一つにつながってから80周年を記念するお祭りでした。橋はブーケで美しく飾られ、向こう岸の村ではダンスや出し物がありました。私たちのうちの何人かは橋をわたって向こう岸まで見物に行きました。お祭りのブルトン・ダンスの音楽はこちら側まで聞こえてきました。見物した人は、陽気なウエスタン・ダンスはよくそろっていて楽しんだみたいです。祭りの締めくくりはきれいな花火。星空一面にひろがってきれいでした。



日曜日、思ってもかけなかったことが私たちに待っていました。総顧問会が総会計係とともに、島巡りの遊覧船観光を準備してくださったのです。お弁当を食べた後、午後いっぱいブルターニュ人パスカルさんの運転するバスに乗って、ペイロギレクの船着き場に向かって出発しました。とはいっても、実はそこに着くまで、どこに行くのか、どんなプログラムが待っているのか私たちには知らされませんでした。さまざまな鳥が生息する『七島の周航ツアー』。「水夫のガイド」氏が、鳥たちの生態について解説してくださいました。数千のアホウドリ、カモメ、鵜...アザラシまでいました。ポートフォリオの写真をご覧ください。一つの島には上陸して、散歩を楽しむことができました。でもご用心。45分後に必ず戻ってくる。もし乗り遅れたら、あしたまで次の船は来ないからです。私たちのうちの5人にとっては水の洗礼ならぬ海の洗礼。これが生まれて初めて海に出た体験だったからです。本当にいい体験でした。



何人かに沖に出た感想を聞きました。「大きな波が来たとき、少し怖かった。海は危険だということを実感しました。でもいい経験ができて面白かったです。」「ほかの総会参加者と一緒にこういう体験ができたことはとても良かったと思います。」「アホウドリの島は感動しました。あんなのいままで見たことありませんでした。」「私は鳥の生態の説明を聞いて感動しました。アホウドリのカップルは生涯忠実に同じ相手と添い遂げるのだそうです。カップルははるかかなたアフリカまで渡っていくけれど、必ず故郷の同じ巣に戻ってくるのだそうです。私たちのように。私たちも共同体とともに、イエスさまと忠実に添い遂げるでしょ。」「沖に漕ぎ出さない。これを実際に体験した素敵な一日でした。」



さて、一週間が始まります。総会のカレンダーはびっしり詰まっています。どうぞ聖霊が来てくださるようにお祈りください。